

## 「姶良市 思川みどり会」

姶良市姶良町平松 3103-5

発表者：坂 上 多計二

私は、「姶良市思川みどり会」の坂上多計二と申します。

本日思川みどり会が、地域貢献活動団体として体験発表の場を与えられ、ここに関係各位に対しまして心より感謝申し上げます。

思川みどり会は、昭和49年に姶良市を流れる思川を隔てて隣接する集落と合同で結成された老人クラブですが、平成12年に、先方の集落から突然解散を提案され分離しましたが、私達は上水流（かみずる）自治会の要請を受け、老人クラブの再建に取り組みました。



解散当時の会員数は22人であり、これでは上水流自治会のための活動もおぼつかなく、上水流自治会の了解の下、会員組織の抜本的な改革へ取りかかりました。

その内容について次の通り発表します。

### ● 会員組織の改革

(1) 先ず60歳以上の方々を対象に、思川みどり会への加入を呼びかけ、60歳未満の加入希望者も受け入れたところ、60歳未満者も2人加入しました。

希望者で老人クラブ活動に前向きの方々を正会員として、会費1千円を負担していただき、老人クラブ活動に消極的な方々は賛助会員として、会費免除とするよう会則を定めて会員募集を行った結果、正会員26人、賛助会員33人の合計59人で再発足しました。

その後は、自治会会員から思川みどり会の活動内容が評価されたのか会員数が年々増加して、平成22年度の会員数は、正会員62人、賛助会員24人の計86人（平成22年10月3日現在）となっており、このことが思川みどり会が他の老人クラブと趣を異にしていることと思っています。

旧姶良町内の老人クラブで、唯一会員数が増加しているクラブだと言われ、その証を聞かれて思い当たるのは、会員制度を改革したのが一番ではないかと思っております。

## ◆活動事例（姶良市 思川みどり会）◆

(2) 上水流自治会は永年農村集落であったが、開発公社の住宅団地造成により外部からの転入者が増えたので、特に人生経験豊富な老人クラブ会員を中心に、転入住民に対して「仲よし運動」を積極的に行ってています。思川みどり会の活動内容の中で住民から高く評価されるのは、会員が万一ご逝去された場合、会員（正会員、賛助会員）の区別なく、思川みどり会から香典（5千円）を贈り、代表者が葬儀で共通の弔辞を奉読することです。

再建当初に一部の会員から、会費を負担しない賛助会員に香典を贈るのに異議もあったが、同じ自治会会員だからと納得していただいて現在まで継続しています。そのことが思川みどり会への新規加入の増加とともに、賛助会員から正会員へと切り替え増加にもなっているようです。

### ● 自治会組織の中での活動

(1) 再建以前の老人クラブは、年に数回寄り合いをしている「年寄りの集団」程度の認識しかなく、しかも、自治会組織とは別建ての団体となっていて、渋々加入している会員が多いため一般住民から見れば、不要の存在と認識されていたようです。



このため思川みどり会の再建に当たり一番に心掛けたことは、自治会組織の中で活動することとし、事業計画等は自治会会員に対してオープンな状態にして、しかも自治会とともに活動しており、自治会から年額2万円の助成を受けております。



また会員勧誘には、毎年度はじめに該当する方に「思川みどり会に貴方の力が欲しい」と、入会を呼びかけるが絶対に強制しないよう心掛けました。

乗り気でない方には、賛助会員への入会をお願いし承諾をいただいたおり、その基本姿勢が会員の漸増になっていると思われます。

その他に年2回程度の「バス温泉旅行」も、新規加入の動機になっているようです。

(2) 毎週2回のグラウンドゴルフは、思川クラブ備品の用具を使用し、いつでも誰でも利用できるようにし、年々参加者は増えています。

自治会の年間行事（スポレク大会・鬼火焚き等）には、老人クラブ会員が主力となって設営準備・竹きりや櫓造りを担当しています。

また毎月の「いきいきクラブ活動」も、ほとんどの参加者が老人クラブ会員で占め、学習活動をしています。



### ● 結びに

転入者が増えてから自治会活動が活性化するとともに、現役世代は公私ともに多忙のため、老人クラブの正会員が自治会活動の主体となり、自治会における思川みどり会の比重はだんだん大きくなり、これは今後の高齢化社会の進展とともに必然のことと思われます。

そうであれば、これから老人クラブ活動が単なるスポーツ同好者団体では、地域の負託に応えることは出来なく、会員組織は年々尻すぼみになるのは明らかのことです。我々高齢者団体を構成する一人一人が自覚を新たにし、地域と密接に連携しながら貢献活動を続けていきたいと思っています。

ご静聴ありがとうございました。

